

- 問1 5世紀頃に現在の大阪府堺市などに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、当時の社会背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 茨城県公立入試 類似)
- 渡来人がもたらした仏教の教えを広めるための寺院として機能していた。
 - 稲作の豊作を祈るために、特定の支配者を持たない集落の人々が共同で管理する祭祀場であった。
 - 東北地方から九州地方まで、各地の有力な豪族が中央政権から完全に独立して統治していた。
 - 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。
- 問2 4世紀ごろから大和政権と密接な関係を築き、朝鮮半島の南西部に位置していた国を何といいますか。この国は、五経博士による儒教の伝達や、日本への仏教伝播など、大陸文化を日本へ伝える窓口としての役割を果たしました。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
- 新羅
 - 高句麗
 - 魏
 - 百濟
- 問3 熊本県に位置する前方後円墳である江田船山古墳からは、金象嵌（きんぞうがん）で文字が刻まれた鉄刀が出土しています。この鉄刀に「ワカタケル大王」の名が刻まれていたことは、当時の日本におけるどのような政治的状況を証明するものとして重要視されていますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- 九州地方に、近畿地方とは異なる独立した強力な国家が存在したこと
 - 大陸から伝わった仏教が、九州地方で最初期に受容されたこと
 - ヤマト王権の勢力が、九州地方にまで及んでいたこと
 - 縄文時代の交易ルートが、九州から関東までつながっていたこと
- 問4 5世紀、ヤマト政権の王たちは「倭の五王」として中国の南朝に相次いで使者を送りました。当時の王たちが、朝鮮半島での軍事的な立場を有利にしたり、国内の支配体制を安定させたりするために、中国の皇帝から得ようとしたものは何ですか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- 律令制度を導入するための法典や教本
 - 仏教を正式な国教とするための許可
 - 遣隋使や遣唐使を派遣するための正式な国交
 - 自らの地位や権威を証明する称号
- 問5 古墳時代の大仙古墳やその出土品について述べた文章として、正しいものを1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- 大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。
 - 大仙古墳などの副葬品には金属器は含まれず、土器のみが納められた。
 - 大仙古墳は弥生時代に造られた日本最大級のお墓である。
 - 大仙古墳からは、副葬品として縄文時代と同じ土偶が出土している。
- 問6 千葉県最大級の前方後円墳である内裏塚古墳が築造された古墳時代の中期には、大陸との交流を通じて新しい製作技術が導入されました。この時期に生産が始まった「須恵器」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器
 - 弥生土器の流れを汲み、野焼きによって比較的低温で焼かれた赤褐色の土器
 - 青銅を原料として鑄造され、祭祀の道具として用いられた釣鐘型の道具
 - 表面に魔除けの意味を持つ縄目の文様をつけた、厚手で黒褐色の土器
- 問7 4世紀から7世紀頃、多くの人々が大陸から日本列島へ移住した歴史的背景と、その後の影響についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
- シルクロードを経由した東西貿易を活発にするため、唐の皇帝が日本の平安京へ大規模な商人の集団を派遣した。
 - 朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術が必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。
 - 律令制度を確立した日本が、地方の豪族を管理するために大陸から役人を大量に雇用し、全国各地に配置した。
 - モンゴル帝国の侵攻に対抗するため、日本列島から朝鮮半島へ軍事技術を持った集団が移住し、防御を固めた。
- 問8 古代日本における漢字の伝来とその影響について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。大陸から移住してきた人々の活動や、宗教的な背景を踏まえて選びなさい。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
- 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。
 - 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。
 - 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に用いた。
 - 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。
- 問9 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2024年 鳥取県公立入試 類似)
- 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
 - 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
 - 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。
 - 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
- 問10 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、鉄器の製作、須恵器の生産、さらには漢字や仏教などの高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
- 遣唐使
 - 防人
 - 弥生人
 - 渡来人
- 問11 5世紀、ヤマト王権の「倭の五王」は中国の南朝（宋など）に繰り返し使者を送りました。中国側の歴史書『宋書』倭国伝に記されている、彼らが朝貢を通じて中国皇帝に認めてもらおうとした地位や権限とはどのようなものですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
- 鎖国体制を維持するために、他国との国交を断絶する公式な許可
 - 明との間で勘合を用いた貿易を行うための独占的な権利
 - 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権
 - 遣隋使の派遣を永続的に免除される特権
- 問12 縄文時代と古墳時代の出土品の違いについて説明した文として、最も適切なものを1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- 埴輪は縄文時代の集落跡から多く出土し、土偶は古墳時代の豪族の墓から出土する。
 - 埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。
 - 土偶も埴輪もどちらも古墳時代の副葬品であり、大仙古墳などの大型古墳から出土する。
 - 鉄剣や銅鏡は縄文時代から用いられ、土偶は古墳時代になって権力の象徴として副葬された。
- 問13 古墳時代の日本（倭）が朝鮮半島や中国大陸の諸王朝と活発に交流していたことを示す証拠について、群馬県の綿貫観音山古墳などの出土品から読み取れる共通点として最も適切なものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- 遣隋使が派遣されるまで大陸との交流は完全に途絶えており、仏教に関する文物のみが特例として見られる点
 - 縄文時代以来の伝統である大型の磨製石斧や、日本列島固有の黒曜石製品が大量に出土する点
 - 江戸時代の鎖国政策の影響により、大陸由来の文物が一切見られず、日本独自の土器のみが発達している点
 - 朝鮮半島の高句麗や百濟、新羅、加耶などの地域と共通する、銅製水瓶や馬具などの文物が確認される点